

松嶋夜話 卷之下 53

〔原文〕翌日也歸慈恩寺念三日

〔訓読〕翌日や、慈恩寺に歸し、三日念図ず

〔原文〕林下庶民欲執大施食會觀齋佛僧

〔訓読〕林下の庶民、大施食會を執行し佛僧を觀齋し、

〔原文〕廣設無遮會助發羽毛鱗介之精靈矣

〔訓読〕廣く無遮會を設け、羽毛鱗介の精靈を助發せん

〔原文〕又立木塔一章

〔原文〕又木塔一章を立てる

〔原文〕請塔所拈香

〔訓読〕塔所の拈香を請ふ

〔原文〕舉香曰

〔訓読〕香を舉げて曰く

〔原文〕村下檀那起信心佛僧供養襲香湯

〔訓読〕村下の檀那、信心を起し、佛僧供養すること香湯を襲(つ)ぐ

〔原文〕四生六道生天上

〔訓読〕四生、六道、生天上

〔原文〕水鳥樹林悉放光

〔訓読〕水鳥、樹林悉く光を放つ

〔原文〕且道如斯殊勝

〔訓読〕且つ道は斯の如く殊勝

〔原文〕憑此甚麼挿香云

〔訓読〕此の甚麼に憑って、香を挿して云う

〔原文〕欲知三世一切佛

〔訓読〕三世一切佛を知らんと欲して

〔原文〕可觀法界唯心商

〔訓読〕法界唯心の商することを觀るべし

〔原文〕便返方丈

〔訓読〕便ち方丈に返る

〔原文〕齋已院主并市長郵長延於余

〔訓読〕齋已んで、院主、市長、郵長、余に延す

〔原文〕睹鳥巢濱山椒貝

〔訓読〕鳥巢濱の山椒貝を睹しむ

〔原文〕二三町間一色此貝也

〔訓読〕二三町の間、一色此の貝なり

〔原文〕厥次之濱有鳥屋洲

〔訓読〕厥の次の濱に鳥屋洲有り

〔原文〕看之也一種花貝也

〔訓読〕之を見るや、一種の花貝なり

〔原文〕雖曰和歌浦伊勢花貝不過之矣

〔訓読〕和歌浦の伊勢の花貝を曰ふと雖も、之を過ぎず

〔原文〕希有地方也

〔訓読〕稀有の地方なり